

2018-2019年度 教育改革推進事業（学内提案分【B2】アクティブ・ラーニングの推進等）

日本語によるアカデミック・ライティングサポート： ワークショップおよび個別支援の実施と支援体制の構築

黒田 史彦・国際センター
伏木田 稚子・大学教育センター

鍋島 有希・国際センター（2019年度後期から）
大森 優・国際センター（2018年度後期まで）

取組の目的

- ①初年次教育やリメディアル教育における日本語リテラシー強化の必要性に応える。

▼
学修活動、学士力、社会人力、社会適応の基盤形成

- ②東京都立大学においても日本語リテラシーの補強は不可欠である。

▼
授業レポート、学位論文、発表原稿等の学術的文章作成能力

- ③留学生を対象としてきたアカデミック・ライティング支援への門戸を全学に開く。

▼
本学に在籍する全ての学生に対する学術的文章の作成支援

- ④学内複数部局の連携により学術的文章作成支援の機会とリソースを提供する。

▼
日本語リテラシー向上を実現する学習環境の整備

理念

- ・自立した書き手
「紙を直すのではなく、書き手を育てる」*
- ・プロセス重視
執筆過程を支援することを通じ、自己修正能力をつける
- ・対話的支援
発問を通じ、学生自身が、考え、決め、行動するよう誘う
- ・専門分野横断的支援
分野の枠組みを越えて共通する「書き方」を扱う
- ・ピアサポート
学生同士で学び合う
支援者自身も成長する

取組の内容

①ワークショップ：実践的な活動を通して、学術的文章の作成に必要なスキルを学び取る。

前期「アカデミック・ライティング101：思考を整理し、表現する力を身につけよう」

- テーマ1 レポートには型がある？ — 基本的な書き方を知ろう
- テーマ2 レポートのための表現とは？ — 伝わる言葉を使おう
- テーマ3 正しい引用って？ — 誠実に参考文献から引用しよう



後期「アカデミック・ライティング102：

読み手を意識し、クリアな書き方を心がけよう」

- テーマ1 レポートを自己診断してみよう — ルーブリックを用いたピア評価
- テーマ2 伝わりやすい文章を書こう — パラグラフ・ライティングの基本
- テーマ3 根拠をわかりやすく論じよう — 参考文献の引用

(いずれも2019年度のテーマ)

各テーマ60分×2回、図書館本館プレゼンテーションルームないしTALL教室にて開催。

②個別支援：ライティング支援員との対話を通して、よりよい文章の書き方を体験的に学ぶ。

学生と支援員の対面による個別セッション。学生は自分の書いた文章を振り返りながら、推敲を図る。

支援員は、原稿の構成、文言の意図などについて質問を投げかけ、共に考えながら、自己修正を促す。

1回50分×1日2～4セッション×週3日×15週程度×2学期、国際交流会館にて実施。

③支援体制構築：ライティング支援員研修プログラムを設計・実施する。

定例ミーティングを開催し、支援員としての資質向上を目指す（2018年度）。

支援実践や事例検討を通じて、支援員自身もよい書き手として成長できる。

2018年度は8名、2019年度には7名の大学院生が支援員として活躍した。



ライティング・スキル
作成の手順、問いの立て方、論文の構成、論理展開、引用の方法、パラグラフ・ライティング、参考文献の書き方、など

セッションの流れ

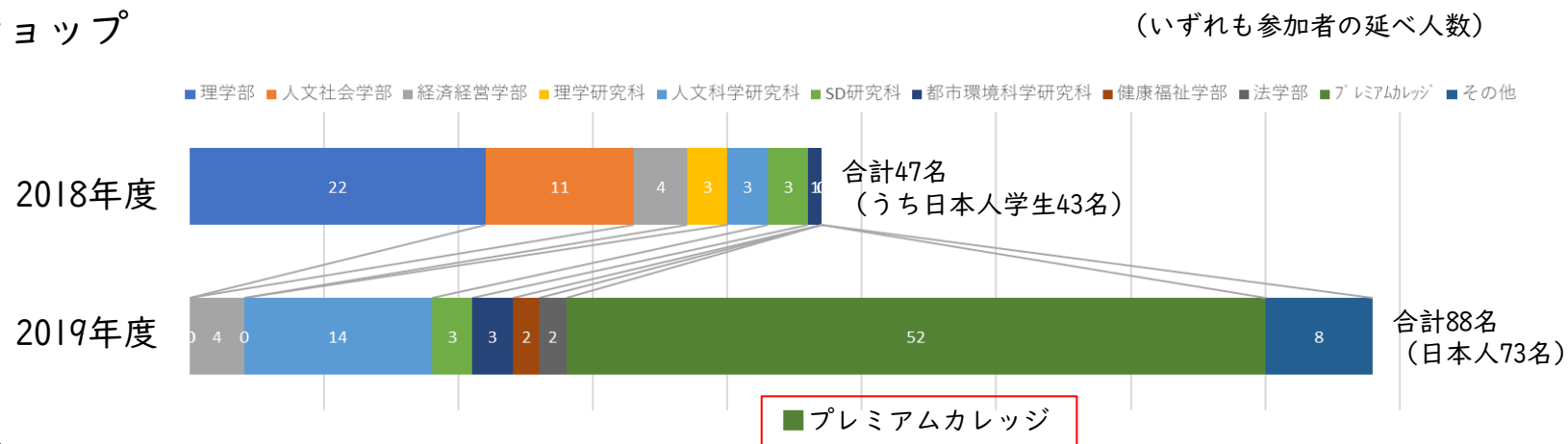
- ・今回のセッションで何をどこまで進めたいか確認。
- ・草稿を音読してもらう。原稿の内容・状況を把握。
- ・例えば、主張や根拠の曖昧さ、論理構成の分かりにくさを改善したい場合、執筆意図を学生自身に説明してもらう。
- ・執筆意図に相応しい主張、根拠、論理構成の在り方を学生と共に検討する。
- ・草稿と推敲後の原稿を比較し、改善点と改善方法を意識化。
- ・学生と共に振り返り、学びや気づきを整理する。
- ・原稿をポートフォリオに保存し、セッションごとの支援内容や引継事項を記録する。

研修テーマ
論文の構成、一文一義、論理性、首尾一貫性、パラグラフ・ライティング、主張と支持、引用の方法、参考文献の書き方、問題の洗い出しと優先順位づけ、思考を促す発問、傾聴、など

利用実績

①ワークショップ

所属別

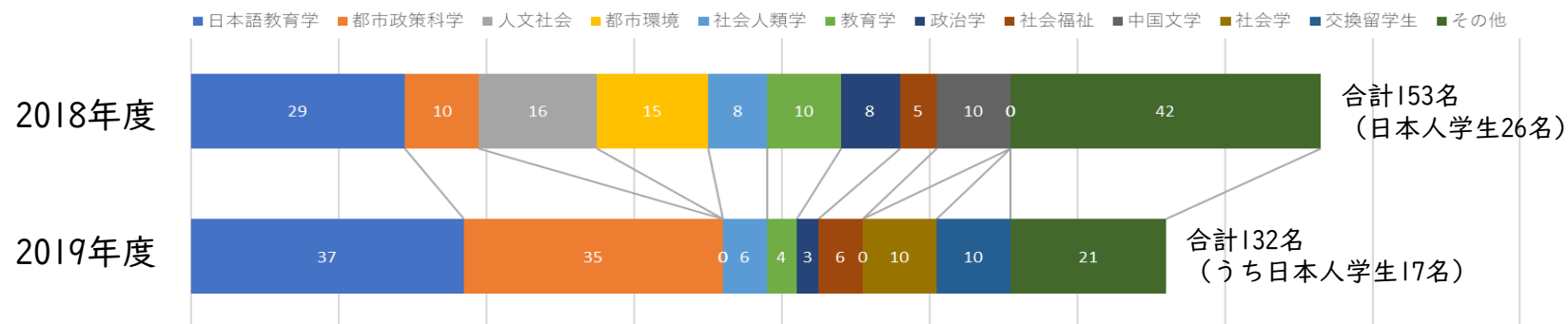


アンケート回答（抜粋）

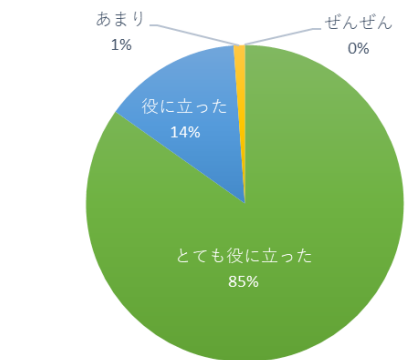
- ・自分のできていたことも、できていなかったことも、ワークショップ内で言語化・可視化できてよかったです。
- ・自分の文章のくせが分かったこと。整えられた文章が美しく、分かり易くなったことにびっくりした。

②個別支援

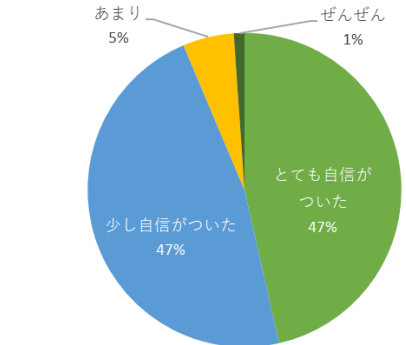
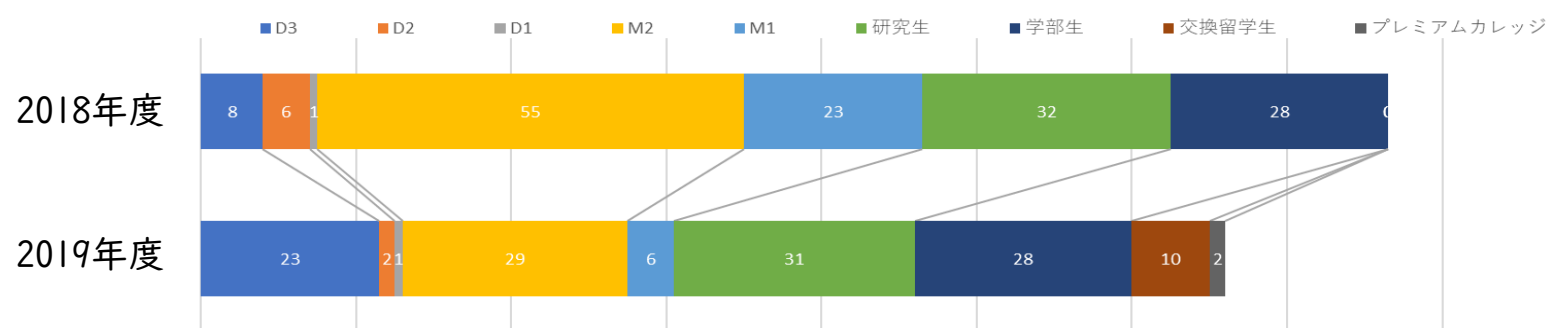
専攻別



アンケート結果（抜粋）



学年別



取組の成果

① ルーブリックの作成

ワークショップの要点がまとめてあり、学生がレポート提出前に自己診断できる。

チェック項目：問いと根拠の関連性、事実と意見の区別、引用の方法、参考文献、など

② TMU OCW (Open Course Ware) として公開

学術情報基盤センターの協力を得て、ワークショップの様子を収録・公開した。

「アカデミックライティング101 レポートには型がある？ — 基本的な書き方を知ろう」
 担当者：伏木田 URL：<https://ocw.tmu.ac.jp/courses/32/113>

③ ライティング支援員研修プログラム用動画の撮影

アカデミック・ライティングの熟練支援者に協力を得て、模擬実践の様子を収録した。

収録ビデオおよび文字起こしした対話資料は、支援員の研修プログラム内で活用する。

スタートアップ後の計画

① 2020年度より個別支援の拠点を図書館本館内に開設

学術情報基盤センターの協力を得て、図書館本館のグループスタディールームに常設。

② 2020年度後期よりオンラインによる個別支援を開始

個別支援のオンライン化を準備中。所属キャンパスに関わりなくアクセス可能となる。

③ ライティング支援員研修プログラムの拡充

米国CRLA (College Reading & Learning Association) から International Tutor Training Program Certification (ITTPC) の取得を目指す。

認証が得られれば、日本国内で4番目の取得となる。支援員の安定的確保が今後の課題。

ルーブリック

アカデミックライティング101 2-段み手を熟練し、クリアな書き方を心がけよう
 テーマ① レポートを自己診断してみよう—ルーブリックを用いたピア評価

● このルーブリックは、**ワークショップ**を参照する形で作成したものです。
 ● ほかの授業で採られるレポートは、必ずしもこの評価ルーブリックの項目と適合性がない場合もあります。必ず、**担当教員の指示**に従うようにしてください。

項目	達成できていない	部分的にできている	ある程度できている	よくできている
1 一貫の書き方（人・話題の順序、自「である」語）に従って書かれているか	0	1	2	3
2 問いが本文中に明示されているか	0	1	2	3
3 根拠が本文中に明示されているか	0	1	2	3
4 問いについて事実と意見が区別されているか	0	1	2	3
5 根拠が自分の論点で構成されているか	0	1	2	3
6 論点が本文中に明示されているか	0	1	2	3
7 問い・根拠・意見は簡潔なやり取りがあるか	0	1	2	3
8 文脈（書籍・論文・新聞記事）が十分に引用されているか	0	1	2	3
9 文脈の根拠がルールに従って本文中に引用されているか	0	1	2	3
10 引用文脈リストが記述されているか	0	1	2	3
備考 基本情報（授業名・レポートのタイトル・学級番号・氏名）が記載されているか	*1: 記載されていない情報			
備考 評価が学級内評価（同じクラス）を指すレポート本文は、必ずしもこの評価ルーブリックの項目と適合性がない場合もあります。必ず、 担当教員の指示 に従うようにしてください。	*2: 評価が実施されている。・評価が実施されている			

合計：_____点

© 2019 東京都立大学 学術情報基盤センター・ライティング・サポート・プログラム

OCW



研修用動画

